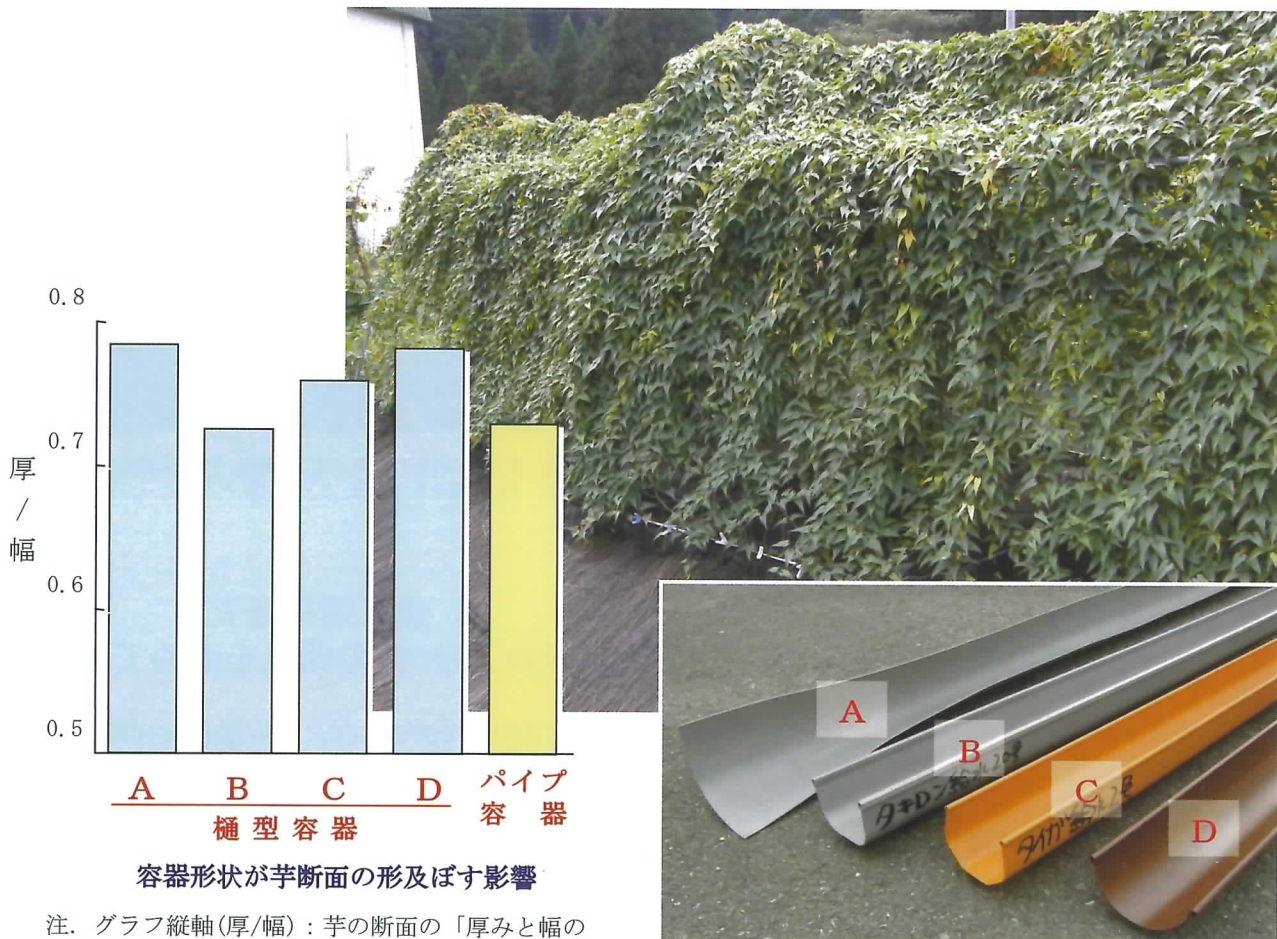


樋型容器を利用したジネンジョ芋形状の改善



容器形状が芋断面の形及ぼす影響

注. グラフ縦軸(厚/幅)：芋の断面の「厚みと幅の比」を基部から末端まで測定した平均値。数値が1に近いほど円に近く望ましい。

試験に用いた樋型容器

A, B, C：専用容器、D：軒樋

ジネンジョ栽培に樋型容器を利用すると、従来のパイプ型容器による栽培に比較し、形状の良い芋が生産できる上、山土の使用量が約1/2ですみ、栽植密度を2倍以上に高められるため、生産性も向上することが分かりました。

ジネンジョ栽培は、パイプ容器の利用により広く普及してきてと言われていました。しかし、パイプ栽培では土の

圧力が芋に掛かりにくいため芋形状が扁平になりやすく、山土をパイプに十分に詰める必要があります。作業負担を減らせない欠点があります。

そこで、埋設や掘取りが容易な樋型容器に着目し、研究を進めています。今後、施肥や誘引方法を含め、省力的かつ効率的なジネンジョ栽培技術の確立をめざします。(山間農業研究所)